

《株式会社エフエム東京 第415回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 27 年 2 月 3 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数6名(社外6名 社内 0 名)

◇出席委員(4名)

横 森 美 奈 子 委員長	香 山 リ カ 委員
秋 元 康 委員	西 田 善 太 委員

◇欠席委員(2名)

渡 辺 貞 夫 委員	内 館 牧 子 委員
------------	------------

◇社側出席者(11名)

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
唐 島 専務取締役
石 井 常務取締役
平 常務取締役
藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長
山 科 常勤監査役
村 上 執行役員 編成制作局長
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
砂 井 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0名)

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 24 分)

「TOKYO FM / Kiss FM KOBE 共同制作

2015 年成人の日特別番組 『神戸に生まれて、20 歳の誓い』

2015 年 1 月 12 日(月・祝) 14:00～14:55 放送

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2014 年 12 月度 聴取率調査結果について

12 月度聴取率調査結果が発表されました(調査期間:2014 年 12 月 8 日(月)～14 日(日)/ビデオリサーチ調べ)。全日週平均(6:00-24:00)において、当社メインターゲット M1F1 層の【20-34 才男女】区分は在京局中で同率首位を獲得。【20 代男女】区分は単独首位を獲得し、この 20 代においては四期連続単独首位を継続中です。

しかし今回は 30 代、40 代でスコアが減少、またリーチ(到達率)においては【12-59 才男女】で単独トップを継続しているものの、これまで堅調に推移していた平日 daytime 帯での聴取点数の落ち込みもあり、制作面における課題を残す結果となりました。

当社の編成方針である M1F1 層を中心にその前後のリスナーの拡大に取り組んでいくべく、さらなる演出の強化、選曲・企画の再検証に取り組み、聴取率向上に努めてまいります。

■2014 年 12 月 21 日(日)開催 「NISSAN あ、安部礼司」放送開始 9 年目
リスナー大感謝祭「あベキュン♥」開催！



毎週日曜 17 時より放送の人気ラジオドラマ「NISSAN あ、安部礼司」が放送開始 9 年目を迎えました。これを記念し、9(=キュン)にかけて、「胸キュン」をテーマにしたリスナー大感謝祭『あベキュン♥』を、12 月 21 日(日)、横浜の日産グローバル本社ギャラリーで開催致しました。会場には、全国からのべ 29,924 人のリスナーが来場。同ギャラリーの1日のべ人数、最多来場者数を更新しました。イベントでは、平松愛理、寺田恵子(from SHOW-YA)、カズンによるライブ、番組キャストが出演する生ラジオドラマや公開生放送、番組オリジナルグッズの販売など、番組のテーマパークのような企画展開で、クリスマス目の横浜を盛り上げました。

■2015 年 1 月 12 日(月・祝) ホリデースペシャル
『クラレ ランドセルは海を越えて” presents For you』を放送



このホリデースペシャルのタイトルにある「ランドセルは海を越えて」とは、日本の小学生が6年間使用したランドセルの、リサイクルとボランティアを目的とした活動で、使用済みランドセルの寄付を募り、ノート、えんぴつ、クレヨン等の文具を詰めて、世界でもっとも物資が不足している国のひとつであるアフガニスタンの子どもたちにプレゼントする活動です。

「ヒューマンコンシャス～生命(いのち)を愛し、つながる心」をステーションメッセージに掲げる TOKYO FM と、株式会社クラレが主催するこの国際社会貢献運動「ランドセルは海を越えて」とが協力し、2010 年より毎年「成人の日」に特別番組を放送しており、今回で 6 回目を迎えました。

今年はスペシャルゲストに、今年新成人となったアーティスト・家入レオ、そして「ランドセルは海を越えて」の活動に賛同し、タイアップソング「大きな木の下」を創作した平原綾香を迎えて、TOKYO FM 渋谷スペイン坂スタジオから公開生放送でお届けしました。

番組スタートとともに、アフガニスタンの子ども達へ贈る使い終わったランドセルの寄付をスペイン坂スタジオで受け付けたところ、リスナーから 163 個のランドセルがリスナー自身の手で届けられました。双子の女の子を連れてスタジオに足を運んでくれたリスナーは、「2 年前、この番組を聴いて、ランドセルを寄付したいと思っていたけど、雪で来られなかった。今日やっと来られた！」と言って、双子の女の子のランドセル 2 つを寄付して下さいました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○30～40 代の聴取率スコアが減少ということだが、具体的には平日何時頃か？

■過去1年間ほど、朝9時台のワイド番組「Blue Ocean」が全体のレーティングを牽引し

<第 415 回放送番組審議会 議事録>

てくれていたが、今回、20 代は堅調に推移しているものの、これまで一定のボリュームをキープしていた 30～40 代の聴取分数が減ったため、全体のスコアにも影響した。午前中のワイド番組をきっかけに午後ワイドまで継続して聴いていただくことを目指しているが、今回午前中の足踏みが響いてしまった。午前ワイドからもう一度検証したいと思っている。

議題2：番組試聴（約24分）

【番組名】

TOKYO FM / Kiss FM KOBE 共同制作

2015 年成人の日特別番組 「神戸に生まれて、20 歳の誓い」

出演：平松愛理、出羽亮介、中津留裕人

【放送日時】 2015年1月12日(月・祝) 14:00～14:55放送

(JFN38 局 時間違いフルネット)

【番組概要】

本日試聴いただくのは、1月12日(月・祝) 成人の日に放送した特別番組です。

阪神淡路大震災から今年で20年。震災の年に生まれ、復興とともに成長してきた神戸の若者たちが今年成人式を迎えました。

今回の番組の主人公は、20歳を迎えた神戸市長田区出身の出羽亮介君(神戸大学2年)。生後2週間で被災。もちろん本人に記憶はありませんが、家族から折に触れ語られた震災の記憶は深く胸に刻み込まれ、昨今は東日本大震災にも特別な思いを抱くようになりました。今回、出羽君はこの番組を通じて初めて東北を訪れ、同じ被災体験をもつ東北で頑張る20歳の中津留裕人君(宮城大学2年)と出会います。中津留君の家族は震災で仕事を失い、故郷を離れ移住。中津留君は一旦夢をあきらめざるを得ませんでした。同じ20歳で被災体験を持ちながらも、置かれている状況が大きく異なる新成人の二人。彼らの語らいで浮かび上がる家族や故郷、未来や夢への想いを全国の新成人にメッセージしました。案内役は、神戸出身のシンガーソングライターで、震災以降復興チャリティイベントを主宰してきた平松愛理が担当しました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○なぜ番組のときはこういう番組ばかりなのか。

■各社が阪神淡路大震災から20年の特別番組をやった中で、今回当社もわりと丹念に取材をしてきたので、試聴いただこうと思った。

○この番組に関しては特に申し分なく、良いものだと思った。

大学生の2人の話も良く、今後の彼らの力強い歩みを応援したいとも思ったし、「聞いてもいいですか？」というインタビューの仕方にも好感を持った。インタビュアーがずけずけと聞きがちなところに配慮が感じられた。

審議会に出るたびに、こういう心温まるものばかりが試聴対象となるが、本当はもっと変な番組をやっているんじゃないかとも思う。いい番組の審議だけでは全体の TFM の向上にならない。こんな番組はいかがなものか、というものも俎上に乗せ、審議にかけるべきだ。TFM は全部こういう番組というわけではないだろう。レーティング取るためのえぐいものも出した方が良くはないか。

○批判するような内容ではなかったと思う。一つ気になったのは、こういう被災者を取り上げている番組は、どうしても被災者の方の“無謬性”のようなものが強調されがちだ。今回の二人の青年も、「親に感謝している」とか、「人の役に立ちたい」とか、文句のつけどころがない。震災という“負”の体験も自分にとってはプラスの成長に役立ったとか、復興の歩みに関して、遅いなどと文句を言うわけでもなく、絵に描いたような立派な青年たちだった。

このように社会的に弱い立場にある人を、「非の打ち所がない守るべき存在」というように描かれすぎてしまうと、彼らが今後生きていく上で、ある種のプレッシャーを抱えてしまわないか気がかりだ。本当は嫌になっちゃうこともある、とか、復興に関しての批判的な目や、彼らの普通の 20 歳の遊びたい感じなども描いてもらうとほっとする。できすぎていて聴いていて少しつらい。少し緊張しながら聴いた。

○二人の口調が丁寧なのが、こういう番組の中では珍しい。二十歳の男子同士の会話という構成にしたのが良かったと思う。男子の持っている子どもっぽさや、誠実さがうまく引き出されている気がした。取材対象者の、人に訴える力を引き出すのは、制作者との関係性の賜物。スタッフがうまく引き出していると思った。途中で気になったのは、なぜこの二人が会ったのかという説明が今一つなかった点と、紙に書かれた質問を読んでいるのではないかという点。そう聴くと一気に嘘くさく思え、アンビバレントな感情で聴いていた。

平松さんは神戸の須磨区出身なので、起用理由はわかるが、女性ナレーションがつなぐラジオ番組の典型例でもあり、あえて言えば全体が well-made になってしまった印象もあった。

■質問に関しては、スタッフと出羽くんとの間で事前に相談していた。出羽くん自身に東北に行きたいという想いがあり、中津留くんと会ってみたら、というのは、番組側からの提案。中津留くんは私共の「LOVE & HOPE」の取材の中で以前出会った青年でちょうど今年新成人なので、スタッフもアドバイスしながら二人で話してもらった。

○大変よくできた番組だと思うが、二十歳同士の男の子が話している感じがあまりしなかった。被災の経験があり、それを乗り越えてすごくまともで正しい青年だったが、例えば彼が日々の糧としている趣味とか好きなアイドルとかそういう部分がなかった。番組の中にそういう部分は全くなかったのか？

■一つどうしても最後に聴きたいという質問が、「彼女はいるんですか？」というものだった。中津留くんは長い沈黙の後で、いると教えてくれた。その部分は今日の試聴版ではカットしてしまった。

○そういう若者らしい情報をもっとあった方が良かったと思う。今時珍しいぐらい彼らはすごくまともだが、誰も違う部分もあるはず。結果、内向的な雰囲気、番組メッセージが外に出て行かない、誰に何を伝えたいのかというのが曖昧な感じがした。合間にかかる歌の方が雄弁な感じがした。

○二人ともいい子じゃなきゃダメだったのか。震災によって道を誤った人がインタビューを受けるというのも一つではないか。いいところだけを見せているところに、どこか不自然さを感じる。被災して、「ふざけんな！」と思っている人たちが絶対について、その人たちの怒りを出すことも必要だ。みんながみんな運命を受け入れて納得しているわけではない。新成人だからこそ、「前を向いて頑張ろうなんて、冗談じゃない！」というところがあっていい。

○「あともうちょっとで死ぬところだったんだよ」と周りから言われて育ってきたが、実際には人を失う場面には直面していない出羽くんと、震災の被害をもろに受けた中津留くんは、実は不釣り合いな二人だ。その二人をぶつけてみて本音で話させたらどう転がっていくのか、その面白さはもっとあったかもしれない。もっと深く話を聞いてみたい。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「SPO☆LOVE」
2月28日(土)5:00～7:00放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、3月3日(火)に開催することを決めた。

以上